



「駒の学び舎」どう育つ？

未来を担う駒っ子たち

単位 PTA 研修会報告書

平成26年7月1日（火）午前10時から11時半、
駒沢小学校ランチルームにて、「駒の学び舎」と世田谷9年教育をテーマに開催されました単位 PTA 研修会
についてご報告いたします。出席者は56名でした。

講師

加藤敏久先生（駒沢中学校校長）

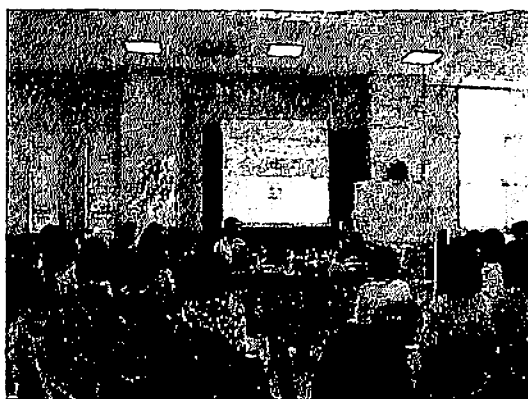


赴任3年目。専門は社会科と道徳。
教育委員会経験も。

萩野三智子先生（駒沢小学校校長）



赴任5年目。



■事前によせていただいた質問

- ・具体的な小1フロブテム、中1ギャップの例を教えてください。
- ・小中9年一貫教育になった場合の良い点、心配される点はなんですか？
- ・9年教育と言われていますが、どの程度つながりがあるのでしょうか？ 生徒個人の情報の共有まで行っているのでしょうか？
- ・学び舎小学校3校のうち、駒沢小出身の生徒に特徴的なことはありますか？
- ・駒沢の子どもたち、こんなことが身に付くとより良くなるのでは？ということはありませんか。
- ・中学校での3年間がどのようなものになるのか、大まかなイメージがつかめるようなお話しを実例とともに伺いたいです。
- ・駒中では希望者に補講があると聞いたことがあります、まだありますか？
- ・小学校⇒中学校とつながる教育現場の現状、これからなど具体的なもののお話しが聞けると親としてイメージしやすいかと思います。

以上の質問を事前に先生方にお伝えし、当日は質問内容を織り交ぜながら、世田谷9年教育とは？駒沢中学校で取り組んでいること、家庭で気を付けたいことなど、多岐にわたり密度の濃いお話しをいただきました。

■駒沢小学校の子どもって？

(萩野先生) 落ち着いている地域・学校だと思う。

子どもたちが優しい。相手のことを待てる。集団行動の規律を守れる。教員がそれぞれの良さを見ながら進めようとしているので、うまくかみあっていると思う。

お子さんの良さを一番知っているのは
おうちの方です。
一緒に育てていきましょう！



(加藤先生) 駒沢小の子どもは授業やそのほかの活動で自分の考えを発表することに慣れているので、中学校にきても原稿を見ずに堂々と発表ができる。

■駒沢中学校の生活って？

(加藤先生) 大切にしていること：

全学年3学級から4学級に増えました。
運動会は縦割りの色別で、子どもが
たくさんいると盛り上がりますね。

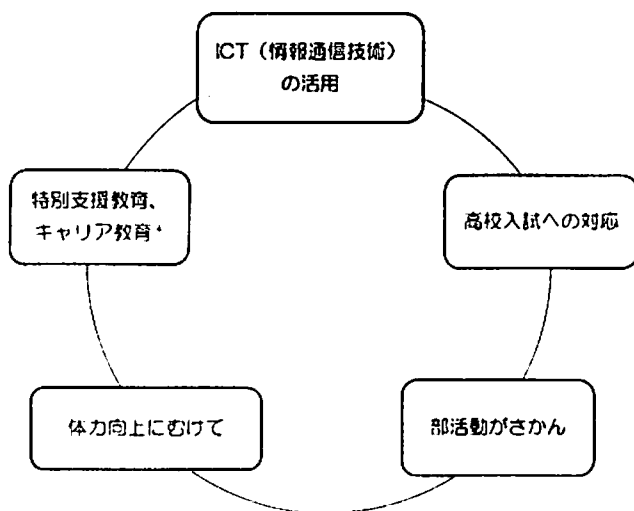


知識量だけを問うのではなく、「なぜそうなるのか」を考えさせる。将来、物事の根拠を説明できなければ、グローバルな社会で仕事が成り立たない。

・タブレットPC40台が導入され活用されている。駒沢小でも2学期以降、導入予定。学び舎単位で取り組むことで中1ギャップが起きにくいという意義がある。

・国語・数学・理科・英語は習熟度別の少人数授業を導入している。難関都立高校の自校作入試問題にも対応している。

・女子バレーボールや卓球は都大会常連。サッカー、野球は区でも上位。兼部もできるJRC（地域ボランティア活動）部が去年創設された。



・学び舎全体の体力は都平均より下のため、マイトレーニングプログラムを開発。準備体操の中に自分の弱点強化のためのプログラムを取り込んでいく。

*特別支援教育（インクルーシブ。通常学級で要支援児童も一緒に学ぶ）

*キャリア教育（高校訪問、職場体験、駒沢大学の授業に参加、駒大生食でカレーを食べる、進路説明会など）を行っている。

世田谷区教育要領による教育

- ・繰り返し学習や補習を行う
- ・ことばの力を高める言語活動（集団討論など）
- ・世田谷区の子どもたちにふさわしい高い水準で発展的に学習する（国語・数学・理科・英語）

そのほか：

持続可能な発展のための教育（ESD）の一環として、ユネスコスクールに指定された。

「道徳」の授業に力を入れている。

タンチ山は今までは立ち入り禁止だったが、遊歩道を整備して生徒が入れるようにした。

校庭を一部、芝生にした。

（萩野先生）近くに駒澤大学があるのもメリット。

JRC 部の朝のあいさつ運動は、学び舎小学校3校で行われている。

部活動がさかんで、忙しいと聞くが、部活と勉強の両立はどうしているのか？（参加者から質問）

（加藤先生）中学校は、毎日の宿題はほとんど出ないので、毎日20分～30分学習するという習慣が大切になる。一人でできない生徒は、部活が18時に終わってから塾に行くケースもある。大半はうまくこなせているし、それくらいの負荷があってもいいのではないかと中学校では考えている。

高校入試について

・ 都立高

出題方針は、知識の定着や思考判断・表現力などを見ること。

推薦は、面接・集団討論・3年2学期の内申点。

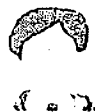
一次試験は、学力検査700点・内申300点という配点。

・ 私立高

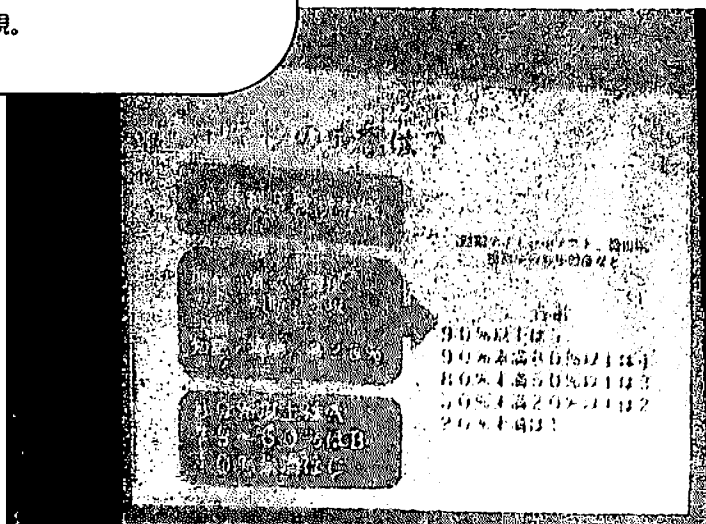
推薦は3年2学期の成績で高校の推薦基準で入試相談。面接のみの高校が多い。難関私立は極めて難しい。

一般入試は当日の得点（3科）重視。

家庭学習の習慣を身に付け、
勉強と部活動の両立を！



駒中からは公立・私立
半分くらいの割合で進学



■小1フロblemについて

（萩野先生）校長の目から見ると、1年生はお利口さん。集団行動もできるようになっている。担任の先生に聞いてみると、保育園・幼稚園の教育方針がはっきり打ち出されているので、それぞれの園の特性がある。また、それぞれの良さや個性を生かしながら学級運営をしているので、2ヶ月くらいすると子どもも担任の学級運営に馴染んでくる。

自分で自分の課題に気付けるような
声かけを！



担任から連絡帳や電話で報告があっても、
日常なことなので、そんなに心配しないで、
一緒に育てていきましょう。

発達段階に応じて身に付けたい力がある。その子がやる気をもつような（自分のこういうところを直せばいいんだと気づけるような）声かけを家庭で意識してほしい。いろんな子がいて、関わりながら育つことに公立小学校の良さがあると思う。

小1フロblemは駒沢小では
さほど感じません。



■中1ギャップについて（学習面・人間関係）

（加藤先生）小学校6年間と中学校の違いはいろいろあるが、それをなんとか円滑につなごうというのが世田谷9年教育。特に算数と数学は相当高いレベルで連携している。

たとえば、小学校では「学習のめあて」が黒板に書かれる。たいてい中学校に行くと板書されなくなるが、駒中では「学習の目標」を板書する（小中で差がない）。

学び舎の校長4人は仲がいいし、体育や主任、特別支援教育などの連絡会があり、個人情報に気を付けながら情報交換をし、9年間で子どもを育てている。

以上の取り組みから、勉強ができなくて学校に行きたくないという中1ギャップの生徒はいない。

人間関係のトラブル（いじめ）にはしっかり取り組んでいる。いじめめななこと（きつく言う、いじるなど）は起こるが、見逃さない・早期に解決するというのが駒中はよくできていると思う。いじめ防止シンポジウムを生徒会で立ち上げたり、教育相談体制も整えたりしている。

いじめめかな？という芽を見逃さない。
子どもが家庭で話した場合は、
校長でも担任でも伝えてください。



中1ギャップはもう1つ山があり、中1の2学期の壁というのがある。英語と数学で急に学習が難しくなる。数学は一次関数が始まる、英語は不定詞など文法事項が入ってくるので、この壁をみんなで乗り越えていけると、学習の不適應はなくなる。教員がこの壁の意識をもっているので、その対応ができている。



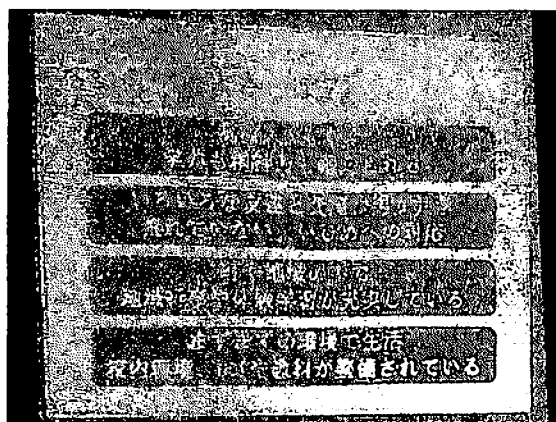
小学校は担任が広く教えるが、
中学校は専科なので深く教えてもらえます。

小学校の授業は話し合いが多くて面白いと思う。
小中でお互いに良さが分かっているのが
良いですね。



■個人情報の共有はどこまで？

(萩野先生)細かいところまでは言えないが、かなり共有している。たとえば配慮が必要なお子さんは連携が必要なので情報共有しているが、扱いには十分注意している。小学校の高学年での学習・生活の様子や、委員会など特別活動で何をがんばったかなども共有している。



■公立中学の良さとは？

(加藤先生)ゆとり教育・いじめ問題の影響で公立中が敬遠される時代もあったが、バブル崩壊やリーマンショック後の世の中の変化により、質もますます、費用も安い公立でいいのでは？幸せな人生とは何か？というように価値観が変わってきた。特に、都立高校で学区制をなくしたことで、日比谷・西・戸山といった名門高校が復活した。このような流れから、平成26年度には駒沢小学校から64%が駒沢中学校に進学した。

公立中の良さは、高校入試で学力も精神力も鍛えられる、いろいろな友達と交流できる、地域密着、比較的整備された環境（校内環境、ICTや教材など）で生活できるなどの点があげられる。

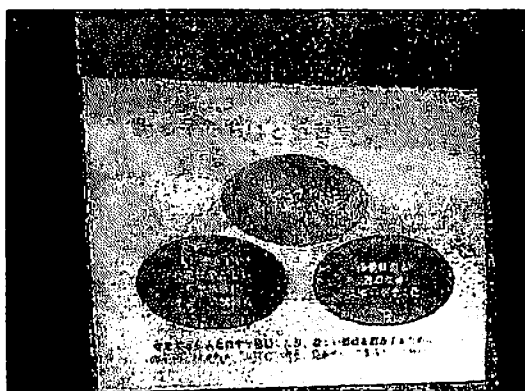
■駒っ子たちはどう育つ？

(加藤先生)豊かな学力と21世紀型スキルをもち、人・自然・町や地域にやさしい気持ちをもち、基礎学力と健康な体を培ってほしい。さまざまな人と共生・共働し、新しい価値を創造するために数学的・科学的かつ論理的に考え、英語やICTで表現し合う時代へ。

21世紀型スキル

知識だけではない、問題解決能力・思考力・コミュニケーション能力といった新しい能力のこと。

駒中では、物事の根拠を考えさせる、ICTを活用する、言語活動を取り入れるなどしている。



■こんなことが身に付くと良いのでは？

(萩野先生)

- ・提出物をきちんと出す。持ち物を忘れない。
それが社会に出て基本条件になるので、習慣づけを。

おうちで声かけして
お子さんにやらせましょう！



- ・芸術科目を含む得意教科を伸ばす。
- ・自分のことを自分で言えないことがある。何をどうしてほしいのか伝えられるように。
たとえば、「トイレ！」ではなく、「トイレに行きたいので、行ってもいいですか？」とセンテンスで言えるようにしたい。
- ・判断力を身に付ける。
あまり親が先回りすると子どもの考える力がなくなる。自分で考えて決定させてから、親が話すというほうがいいと思う。発達段階に応じて、その子に決めさせるということが大事ではないかと思う。

■当日のアンケートより

ご参加・ご協力
ありがとうございました。

- ・9年教育として、これだけのシステムが整っているので
中学で私立などに出してしまうのはもったいないと感じました。
ずっと駒中の校長先生が変わらないといいと思っています。
- ・自分の時代とかなり違った環境の中での子育てのため、事前に小中のお話が聞けて参考になりました。
- ・今後も中学校との交流が増えればと思います。
- ・駒の学び舎について、その意義や実態がよくわかりました。
- ・なかなか中学校の校長先生のお話を伺う機会はないので、今日、間近でお話を聞くことができて良かったです。
- ・子どもの特性・良さを伸ばしながら世界に通用するような人間に育てるのは難しいけれど、大切なことだと思いました。
- ・ひととき保育があれば良かったです。



加藤校長先生、萩野校長先生
お多用の中、ありがとうございました。

■印象に残ったことは？ (アンケートより)

- ・公立の良さ。駒中・駒小の良さ。
- ・駒の学び舎（9年教育）連携がとれていること。
- ・高校入試のしくみがわかった。
- ・公立・私立の違い。
- ・小中の授業の進め方の違い。
- ・中学の学習カリキュラム。
- ・いじめへの取り組み。
- ・タブレット・PC使用。
- ・21世紀型スキル・教育。
- ・中1ギャップ。
- ・小1プロブレム。
- ・特別支援教育（インクルーシブ）。
- ・今の社会に対応した子育てが大切。